



「教職の魅力」を考える 3

～「これからの学校を考える」校内研修から～

令和5年10月 神奈川県立総合教育センター

県立総合教育センターでは、希望する学校等に講師を派遣するなど、各学校での研修・研究等を支援する「カリキュラム・コンサルタント」を行っています。この一環として、今年7月に、ある小学校で行われた校内研修会に参加しました。そこでは、当センター所員による講話を基に、教職員がグループワークを通じて、「これからの学校づくり」に向け、自校の強みや課題、充実改善の手立てを考え、意見交換する取組が行われました。

研修を通じて考えた「これからの学校づくり」 明日から「やってみよう」と思うこと

「当たり前」の共有 柔軟な変化

- ・自分の考えていた「良い学校」と、他の先生方が考えていることが違うと感じました。自分にとっての「当たり前」を変えていくことも大切だと感じたので、少しずつ今の社会に合わせていきたいです。その際には、「変えてはいけないこと」もしっかりと見極めていきたいです。
- ・今までやってきたことに囚われがちになるが、認識を柔軟に改めていかねばならないと日々感じています。特別支援教育に長く携わっていますが、インクルーシブ教育を進める中で、何を大切にしていけばよいのか、悩みどころです。これまでの考えに囚われず、柔軟に新しい風を取り入れたいです。
- ・時代に応じて学校の在り方も変化していけるよう、我々が「当たり前」を常に更新し、最新の「当たり前」を共有していこうと思いました。教室を、子どもたちにとって家のように感じてもらえるようにしたいです。
- ・保護者の考え方が多様化していく中で、柔軟に対応していくことのできる体制が、これからの学校には必要だと思いました。問題を解決していくためのステップ（分析検証、課題の抽出、方策検討、実行）の一つひとつに、しっかりと取り組んでいきたいです。
- ・時代と共に変化して当たり前。変化を恐れず常に柔軟でいきたいです。学び続けていきたいです。本日の研修を通じて、改めて本校の職場環境（教員同士のつながり）の良さを感じました。現状でも私は充分満足ですが、自

分の意見をもっと積極的に伝えていこうと思いました。そして、まずは自分自身、心も身体も元気であります。



「対話」と「伴走」

- ・教員同士の円滑なコミュニケーション、保護者との対話が大切です。そして何よりも、教員自身の向上心が大切。厳しくも温かい先生を目指します。
- ・教員間のつながりを強くして、チームで子どもを育てていくという姿。若手がこの学校に運んできた「風」を受け止め、自分も、これまでの学校に囚われることなく、柔軟に対応していきたいと思います。
- ・つつい均質性、平等性に囚われてしまい、子どもたちの個性や持ち味、意欲をつぶしてしまっているかもしれないと感じました。対話し、伴走する教員、学校でありたいです。まずはたくさん「対話」します。
- ・子ども一人ひとりに寄り添う、思いをはせることの大切さを改めて感じました。自分の気持ちを言葉にして伝えてもらえるような関わり方を心掛けたいです。また、「チーム学校」に向け、普段あまり話す機会がない先生とも積極的に話をしていきます。
- ・職員室の雰囲気をもっと良くしていきたい。それが子どもたちにも伝わっていくと思うので。日々、目の前の

子どもたちで精一杯になりがちなので、視野を広く持ち、他学年の先生方とも、もっとコミュニケーションを取っていきたいです。

- ・子ども一人ひとりへの支援や対応がこれまで以上に必要となる中、**教職員の個性や持ち味をいかしながら**、チームプレーを行っていかねばならないと思いました。子どもに対し、どこまで手を差し伸べるべきか、支援を行うべきか、自らの成長を促す意味で、その頃合いが難しいと感じます。また、チームで対応をする際には、本校の課題の一つにも挙げた、教員同士の「指摘の少なさ」は、少しずつでも解消していくことが大切だと思います。言いにくいことでも、しっかりと伝えていきたいです。
- ・学級の枠を感じている教員も多く、問題を抱え込みがちな部分が見られることから、**教員同士の対話を更に充実**させていきたい。**突っ込んだ話し合い**を行いたい。

研修を通じて考えた、教職の魅力や醍醐味、やりがいなど

- ・初めて卒業生を出した時に「先生は厳しかったけど話を聴いてくれ優しかった」とのメッセージをもらったことを思い出した。自分が意識して貫いてきたことが子どもたちにも伝わっていて、その時の**達成感**はそれまで感じたことのないものでした。
- ・子どもの成長を直に感じられること。**関わった分だけ**子どもの力になっていくこと。特別支援学級の担任を、どの先生にも経験してほしいです。
- ・自分の「**持ち味**」をいかした授業や指導をした時に、それが子どもたちに伝わり、輝いた眼を見ることができると。
- ・毎日かわいい大好きな子どもたちに会えること。授業の後に「楽しかった」と言ってもらえた時。子どもや保護者から**信頼**してもらえたと感じた時。子どもの成長に携わる**責任**ある仕事だと思います。

・子どもたちと日々**触れ合う**ことができ、その成長を目の前で感じるができること。

・社会が変化しても、**人が人を教え育むという不変の営み**に携われることが、教職の魅力だと改めて感じました。

・「どうせやったって」と投げやり気味になっていた子どもを、褒めて持ち上げて、正しい行動を伝えて、腹立たしく思うこともあるけれど、**長い目で見守り**続けたことで、「やればできる」と思えるようになってきたことは、やりがいです。力で言うことをきかせるのでもなく、ご褒美をチラつかせるということでもなく、できなかったことができるようになる、そんな子ども自身の成長を目の当たりにできるのは教職の魅力です。でも、すぐに結果が出るものでもなく、私自身も何年もかかって、ようやくできるようになったし、**ようやく見られるようになった景色**です。

・子どもができることを一つでも多くしてあげること。できるようになった時の子どもの笑顔。クラス全員で努力し、何かを**成し遂げる**こと。

・人との関わり。成長が見られること。**自分自身が学び続けられる**こと。

・教員を志した理由「日本を元気にしたい!日本の未来を担う**子どもたちを元気に!**」という思いを、改めて思い出しました。

・子どもの**変容**を近くで感じられた瞬間に、やりがいを感じます。

・かつて何度も教師を辞めよう、辞めたいと感じた1年がありました。本校に転勤し、すぐく明るい職員室で、**独り言**のようなつづやきにも耳を傾け聴いてくれる**先生方**に力、勇気をたくさんもらっています。初めて卒業生を出し、一人の子どもの「先生とたくさん話せてよかった。ありがとう。」との言葉をもらい、この仕事でしか味わえない、やりがいを感じました。

先生方同士がざっくばらんに「これからの学校づくり」を語り合う、素敵な校内研修会でした。様々な声をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

なお、「カリキュラム・コンサルタント」については、総合教育センターのホームページに掲載しています。

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/gakkoshien/haken.html>

ぜひ、ご覧いただき、ご活用ください。

